

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和4年 1月 15日

事業所名: 児童発達支援センターひまわり

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。  
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	5	10	0	共有スペースを広めにとり、人数調整をしている。	51	2	0	5	工夫したスペース作りをしている。	児童の特性や集団活動を考慮した構造化について更に検討を重ねる。
	2 職員の適切な配置	0	15	0	児童の出席状況と職員の配置によっては人手不足を感じる時がある。	47	4	0	7	人数については少なく、先生方は大変そうだと感じる。	増員を要望するとともに、業務の効率化を考える。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	8	7	0	写真やイラストを用いて分かりやすいようにしている。必要な児童には、パーテーションなどで個人スペースを確保している。	48	4	0	6	絵カードや気持ちを落ち着かせるスペースがあり、よさそう。	児童や組の実態に応じた環境設定ができるよう関係諸機関の環境づくりに学ぶとともに、専門的視点から外部講師に助言をいただく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	12	3	0	毎日の清掃、週1回の大掃除のときに消毒液を使い、除菌を行った。	54	1	0	3	障がいの特性に応じた空間スペースなどがきちんと確保されている。	感染症予防のため、現在の清掃、消毒を継続する。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	3	12	0	行事等の後、保護者から意見をいただき、指導員の反省と合わせて次の取組を考えた。	/	/	/	/	/	行事等のリーダーを中心としたチームがPDCAを提案し、全指導員が検討するサイクルを定着させる。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	2	13	0	関係諸機関の見学や外部講師を招いての講演時の意見を活動や支援に取り入れた。	/	/	/	/	/	関係諸機関や外部講師からの助言により環境設定や支援方法が改善されるので、今後も積極的に活用する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	9	6	0	定期的に外部講師を招聘し、最新の専門的な知識や技能を学んでいる。	/	/	/	/	/	研修時間の充実を図り、具体的に実践的な指導法を全指導員が学べるように努める。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	8	7	0	より科学的、効率的なアセスメントの在り方について協議しながらケース会を行った。	52	3	0	2	子どもたちの気持ちをよく考えており、一緒に支援計画を作成することができる。	発達検査や日々の記録を有効に活用して児童の課題を明確にし、支援方法について保護者と共通理解を図りながら取り組む。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	10	5	0	1年間を4期として、年間を見通した計画と各期ごとの計画が有機的につながる活動や支援を記載した。	50	3	0	4	丁寧に子どもに関わってくれ、話し合っ決めてくれるのがよい。	今後も保護者と話し合いながら適切な支援に努めるとともに、広く情報を収集し、よりよい支援方法についての研修を推進する。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	8	7	0	組での活動に加えてグループでの活動を取り入れることにより、児童が意欲的に取り組むことができた。	/	/	/	/	/	1年間4期の中で計画的に個別活動と集団活動を組み合わせた年間計画を考える。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
適切な支援の提供 (続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	8	7	0	51	1	0	6	楽しく通うことができているので、計画に沿った支援ができていると思う。	職員研修で配慮を要する児童への関わり方について情報交換し、担任以外の指導員も適度な関わりがもてるようにする。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	8	7	0	/	/	/	/	/	今年度の取組を振り返って改善点を明確にし、来年度よりよい活動ができるよう準備をする。
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	8	7	0	41	8	0	9	いろいろな内容で活動を行うことができている。	1年間4期それぞれにテーマを決め、それに沿った活動を行う。活動は今年のを改善したものを中心にテーマに迫るものを取り入れる。
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	0	15	0	/	/	/	/	/	長期休暇中も電話等で情報交換を行い、相談ごとがあればすぐに対応できる体制をつくるようにする。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	9	6	0	/	/	/	/	/	毎朝の情報交換を継続するとともに、必要などときには臨時的職員会議を開催し、迅速な対応に努める。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	8	7	0	/	/	/	/	/	組日誌を作成しながら指導員間で情報交換を行い、よりよい支援、よりよい協力体制について検討を続ける。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	14	1	0	/	/	/	/	/	保護者への連絡と日々記録を継続する。支援計画作成時には、日々記録の視点や支援方法改善について複数指導員で協議を行う。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	9	6	0	/	/	/	/	/	3か月ごとにモニタリングを行い支援計画を見直してきた。それを継続しながら外部講師の児童の捉え方や具体的な支援方法を積極的に取り入れていく。
関係機関	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	6	9	0	/	/	/	/	/	発達障害に関する世界的な動きを理解しながら、国や県、市の動向に注目し、よりよい対応ができるよう準備を進める。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
との連携	2				非該当							
	3				非該当							
関係機関との連携（続き）	4	10	5	0	連携する園や学校へ出向いたり、園や学校から来園したりしたとき、話し合いをもち、情報共有に努めた。						本園指導員が他園・校に訪問したり、他園・校の先生が本園に来園したりすることが当たり前になりつつある。この流れを大切に交流を深めていく。	
	5	10	5	0	本園で使用していた支援グッズを紹介するなど、具体的な支援方法について情報提供を行った。						できる限りの情報提供をしているが、今後も児童が円滑に移行できるよう配慮していく。	
	6	4	11	0	著名な外部講師を招聘し、最新の情報について指導を受けたり、外部の研修にも積極的に参加したりして能力の向上に努めた。						関係諸機関と連絡を取り合いながら受講できる研修の情報を得よう努めるとともに、外部講師を招聘しての園内研修を充実させる。	
	7	0	3	12	新型コロナウイルス感染症予防のため、十分な交流はできなかったが、来年度に向けて前向きに取り組んでいきたい。	25	3	11	18			児童の安全、安心が確保できる交流活動を検討していく。
	8	0	5	10	新型コロナウイルス感染症予防のため、地域の行事も縮小され、交流機会が少なくなった。							新型コロナウイルス感染症が拡大する中で安全、安心を確保しながらどのような場でどのような活動が可能か検討していく。
	保護者への説明責任	1	10	5	0	毎月、保護者が来園できる機会を設け児童の様子や支援方法について話ができるようにした。	53	5	0	0	通い始めに説明してもらい、その後も子どもの様子や支援について話してもらっている。	利用者負担については、契約時に説明するとともに、報酬改定があったときには、プリントでお知らせをしている。支援の内容については懇談会等での説明を継続していく。
2		12	3	0	個人懇談会で支援計画を基に、児童の成長の様子や支援方法について意見交換を行った。	51	4	1	2	個人懇談などで説明してもらっている。	個人懇談会等で今後も丁寧に説明を行っていく。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
連携支援	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	3	12	0	組別に保護者が集まり、困りごとやアイデアを話し合う会をもった。指導員も参加し園での様子を伝え、有意義な会となった。	29	8	9	12	相談すると一緒に考えてくれて、様々な方法を教えてくれるのでありがたい。	保護者が情報交換する場をもてたので、今後、保護者の意向を確かめながら発展させていきたい。
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	13	2	0	連絡ノートにその日の児童の様子を書き、保護者に連絡した。保護者からも家での様子等の情報が寄せられ共通理解に役立った。	51	6	0	1	先生は子どもの様子や状況をよく見ていると思う。	児童の情報交換をする中で保護者と指導員との信頼関係を深め、共に考え、共に喜べるように努めたい。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	10	5	0	相談があったときには、担任が副主任や主任に相談することで、適切な助言を得ることができた。	49	4	3	2	懇談とは別に困りごとの相談にのってもらって助かっている。	気軽に相談してくれるように保護者との関係づくりに配慮する。相談があったときには、自分ごととして受け止め、よりよい解決のために情報収集に努める。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	5	10	0	保護者が自発的に開催する保護者会の開催ポスターなどを園内に掲示するなど連携支援に努めた。	15	11	9	23	コロナの影響で保護者で話し合う機会が減っているが、園が場をつくってくれるのでありがたい。	本園が開催する様々な行事等の中で保護者が交流できる場をもてるよう検討していく。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	13	2	0	苦情を受けた者が一人で対応することがないように体制を整備するとともに、迅速で保護者の思いを真摯に受け止めるという共通意識をもって対応した。	27	6	1	24		苦情に対しては、園の運営を見直す機会としてとらえ、保護者の思いに寄り添いながらよりよい解決を目指して取り組む。
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	12	3	0	児童の特性に応じたコミュニケーション方法を学ぶとともに、各種の手段でコミュニケーションがとれるように取り組んだ。	49	3	1	5	連絡ノートにその日のことを記入してもらっている。	今後も個に応じたコミュニケーション方法を用いて意思疎通ができるよう研修を行っていく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	14	1	0	毎月園だよりを発行するとともに、ホームページでの発信やメールでの通知、プリント配付など様々な方法で情報発信を行った。	31	0	3	24	毎月のひまわりだよりや連絡帳で知ることができるのでよい。	毎月の園だよりやホームページでの情報発信、連絡帳やプリント、メールなどでも必要な情報を届けられるように努める。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	12	3	0	個人情報扱うPCを限定し、西条市社会福祉協議会個人情報保護規程に則った業務を行った。	47	1	0	9		個人情報の重さについて指導員が再確認する場を定期的にもてるよう場を設定し、危機感をもって取り扱うようにする。
非常時等	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	11	4	0	契約時に説明するとともに、事態が予想される場合は園の対応等を早めに保護者に知らせるように努めた。	38	5	2	13	注意や対応が必要なときは、メールやプリントで知らせてくれる。	季節や時期を見ながら必要な情報を提供するとともに、各種マニュアルの周知に努める。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
母の対応	2	15	0	0	毎月避難訓練を行うとともに、消防署や警察署の指導を受けるようにした。	38	1	0	19	家に帰ってきた子どもが「地震です。」などと訓練のまねをしている。	児童が安全に避難できるよう毎月行っている避難訓練を継続し、指導員も消防署や警察署から指導を受ける。
非常時等の対応（続き）	3	9	6	0	厚労省の障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引きを参考に研修を行った。						年間研修計画に定期的に虐待防止の研修を取り入れる。また、責任者や委員会の設置等虐待防止体制を整える。
	4	2	13	0	配慮を要する児童に対しては、支援計画を作成するときに複数の指導員が様々な観点から意見を出し合い、よりよい支援方法を考えている。						児童の様子や保護者からの情報を見て、児童の変化に気づき、迅速な対応が取れるように努める。
	5	15	0	0	食物アレルギーに関するアンケートや月ごとの給食変更依頼を踏まえ、給食検討委員会で栄養士と指導員で変更を確認している。						今後も指導員間や栄養士との間で情報交換を密に行い、複数の目で確認するよう努める。
	6	11	4	0	事例集の作成だけでなく、事例によっては臨時に職員会議をもち、発生原因と対応について共通理解をもつようにした。						事例をもとに人的環境や物理的環境を見直し、安全で安心な活動ができる環境づくりに努める。

令和3年ひまわりへの苦情は、0件でした。